

相馬港港湾計画 一部変更

平成25年12月2日
交通政策審議会
第54回港湾分科会
資料 5



計画変更箇所

5号埠頭地区

4号埠頭地区

3号埠頭地区

2号埠頭地区

1号埠頭地区

位置図



相馬共同火力発電(株)
新地発電所

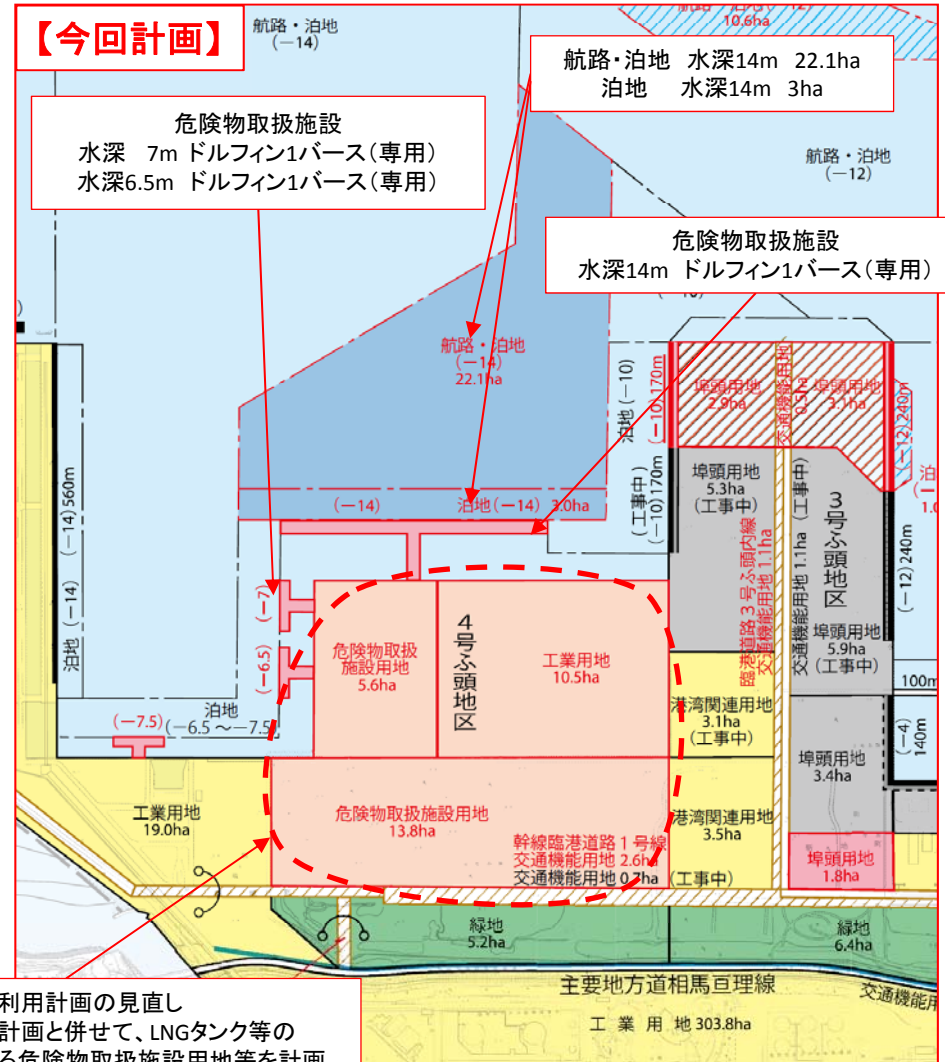
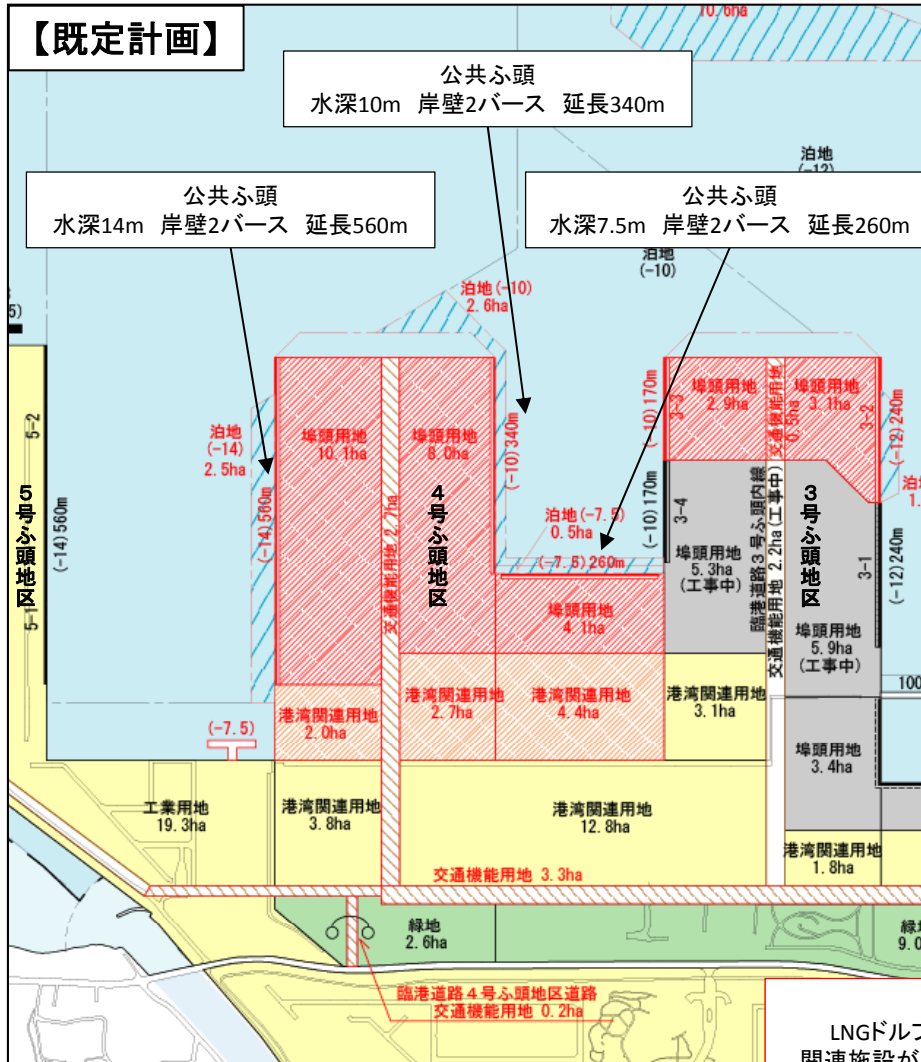
新地町

相馬市

平成24年12月撮影

相馬港 港湾計画（一部変更） 変更内容

○LNGの需要が増大する中、東北・北海道地域におけるLNG供給能力の増強を図るため、4号ふ頭地区について、公共ふ頭計画を見直し、LNG輸入基地の立地に対応する危険物取扱施設及び関連する水域施設計画等を位置づける。



土地利用計画の見直し
LNGドルフィンの計画と併せて、LNGタンク等の
関連施設が立地する危険物取扱施設用地等を計画

相馬港におけるLNG受入基地建設計画

- 平成24年11月30日、石油資源開発(株)(JAPEX、筆頭株主:経済産業大臣)が、相馬港におけるLNG受入基地等の建設計画を発表し、平成25年11月27日に最終投資決定を行った。
- 東北・北海道地域におけるLNG供給能力の増強を図るため、相馬港内にLNG栈橋や大型貯槽タンク等の受入基地を整備するとともに、新潟・仙台間、白石・郡山間の既設パイプラインと相馬港に建設される基地とを結ぶ新たなパイプラインを整備する計画となっている。
- 同社は、平成30年の運転開始を目標とし、輸入量は年間約170万トン(FT)程度を想定している。

【プロジェクト概要】

<相馬LNG受入基地>

建設地点:相馬港

設備概要:大型貯槽タンク1基、
出荷設備(タンクローリー、内航船)、
外航船バース、内航船バース
LNG気化器ほか

供用開始:平成30年運転開始目標

<接続パイプライン>

ルート:相馬港(福島県新地町)~宮城県名
取市、新潟・仙台間のパイプラインに
接続予定

距離:約40km

【石油資源開発(株)のLNG受入・供給体制】



確認の視点

確認事項	国としての確認の視点
	基本方針※
LNG輸入基地の計画	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築</p> <p>(1) 海上輸送網の基盤の強化</p> <p>② バルク貨物等の輸送の強化</p> <p>石油、天然ガス、石炭、鉱石、穀物、飼料、原木、チップ、砂利・砂等のバラ積みされる貨物(以下「バルク貨物」という。)は、我が国の産業や国民の生活を支えるために必要な物資である。</p> <p>(中略)</p> <p>特に、資源、エネルギー、食糧等の国際バルク貨物については、需給が逼迫し、世界的な資源獲得競争が起こりつつある中で、大量一括輸送によるスケールメリット追求の観点から、輸送船舶の大型化が進展しており、我が国への低廉な供給を確保するため、今後の船舶の大型化に対応した港湾機能の拠点的な確保に取り組む。</p>
新規産業の立地対応	<p>(2) 臨海部の産業立地・活動環境の向上</p> <p>(前略)</p> <p>また、臨海部における国内外からの産業立地や設備投資を促進することにより、我が国における産業の国際競争力を向上させるとともに、雇用や所得の創出等により地域を活性化させることが必要である。</p> <p>このため、原材料等のバルク貨物等を輸送する船舶の大型化や企業立地等に対応した港湾施設の整備、臨海部の有効活用・再編による用地の提供を行うとともに、ターミナル隣接地における大型特殊貨物を円滑に輸送するための措置や幹線道路網とのアクセスの確保について関係機関と連携して取り組む。</p> <p>(後略)</p>
	<p>4 活力ある美しい港湾空間の創造と適正な管理</p> <p>① 地域の活力を支える物流、産業空間の形成</p> <p>港湾は、海上交通と陸上交通の結節点であり、また大規模用地の確保が比較的容易であるという特性を有している。</p> <p>この特性を活かし、地震・津波等の災害に強い効率的で高度な物流空間や国内外からの産業立地や設備投資を促進するための産業空間を形成する。</p> <p>(後略)</p>

※港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(平成23年9月15日施行)